

全 員 協 議 会 記 録

令和6年2月2日（金）午後2時59分～午後4時27分

○出席議員（35名）

1番	三浦由美子
2番	高木 直人
3番	浦野洋太郎
4番	佐藤 勢
5番	七島 奈緒
6番	山田 裕
7番	丹治 誠
8番	遠藤 幸一
9番	佐原 真紀
10番	菅原美智子
11番	根本 雅昭
12番	斎藤 正臣
13番	二階堂利枝
14番	石山 波恵
15番	白川 敏明
16番	佐々木 優
17番	後藤 善次
18番	沢井 和宏
19番	石原洋三郎
20番	川又 康彦
21番	鈴木 正実
22番	二階堂武文
23番	萩原 太郎
24番	大平 洋人
25番	小松 良行
26番	村山 国子
27番	小野 京子
28番	羽田 房男

29番	高木 克尚
30番	尾形 武
31番	真田 広志
32番	穴戸 一照
33番	半沢 正典
34番	黒沢 仁
35番	渡辺 敏彦

○欠席議員（なし）

○市長等部局出席者

市長	木 幡 浩
副市長	斎 藤 房 一
副市長	田 中 政 幸
商工観光部長	加 藤 泰 広
商工観光部次長	板 垣 真 也
コンベンション施設整備課長	半 澤 一 隆
コンベンション施設整備課施設整備係長	根 尾 隆 光
コンベンション施設整備課主査	穴 戸 利 紘
都市政策部長	森 雅 彦
都市政策部次長	紺 野 文 康
都市計画課長	赤 間 智 行
都市計画課課長補佐兼まちづ	穴 戸 勝 一
くり推進係長	
市街地整備課長	佐 々 木 泰
市街地整備課副主幹	加 藤 徹 郎
市街地整備課再開発係長	石 田 晋

○議会事務局出席者

局長	佐 藤 光 憲
次長兼総務課長	山 田 正 明
議事調査課長	加 藤 淳

○案 件

1 議 題

福島駅東口地区第一種市街地再開発事業及び福島駅前交流・集客拠点施設整備について

午後2時59分 開 議

座長（萩原太郎） ただいまから福島駅東口地区第一種市街地再開発事業及び福島駅前交流・集客拠点施設整備について全員協議会を開催いたします。

今回の全員協議会につきましては、市長からの要請により開催するものであり、その開催趣旨として、再開発事業の現況と見直しの内容や方向性等について当局から説明を受けるものです。

先例により、議長が座長を務めます。

資料につきましては、さきにお手元に配付のとおりでありますので、ご了承願います。

福島駅東口地区第一種市街地再開発事業及び福島駅前交流・集客拠点施設整備についてを議題といたします。

当局からの説明を求めます。

【市長（木幡 浩）登壇】

市長（木幡 浩） 説明会に続き全員協議会を開催いただき、ありがとうございます。

さて、私は市長就任後、風格ある県都を目指すまちづくり構想を策定し、老朽化し、耐震性の低い公共施設の戦略的再編整備と中心市街地の活性化に取り組んでまいりました。市民センターや新消防庁舎の整備を進めてきたほか、新まちなか広場の整備、古関裕而のまちづくり、回遊を向上させるモビリティの導入等を図ってきたところであります。駅周辺エリアにおいては、県都の顔である東口における都市機能の集積とにぎわいづくりを優先し、新たな交流、集客拠点施設の整備を東口再開発事業と連携して推進し、駅東西の連結機能の強化は拠点整備後の中長期的課題に位置づけておりました。しかしながら、中心市街地活性化の起爆剤と捉えていた東口再開発事業が資材高騰により壁にぶつかり、西の拠点、イトーヨーカドーも5月6日に全面撤退することになってしまいました。非常に残念な思いであり、大きな痛手ではありますが、視点を変えれば、計画を前倒しし、駅東西のまちづくりを一体的に進めるまたとない機会であり、駅東西を一体的に展望したまちづくりを進めてまいります。

本日の全員協議会の後、2月8日には有識者や各分野の方々のご意見を頂戴するための駅周辺まちづくり検討会を立ち上げ、17日には一般市民の皆さんに参加いただける駅周辺タウンミーティングの開催も予定しております。また、市民の要請に応じて説明し、議論する出前講座も実施する方針であります。町なかの厳しい状況に鑑み、特に東口におけるスピードを重視しつつ、議会、市民の皆さんの意見を伺いながら、東西一体の視点から将来的にどのようなまちづくりが望ましいかを検討し、将

来にわたる活性化につなげてまいりたいと存じます。

なお、西口のイトーヨーカドーの土地、建物は東京に本社がある不動産会社が所有しています。現在、同社において今後の取扱いの検討が進められていますが、市の議論は同社に対し市として働きかけ、調整していく際の材料となるものであります。

それでは、資料に沿って都市政策部長から説明申し上げます。

【都市政策部長（森 雅彦）登壇】

都市政策部長（森 雅彦） 都市政策部長の森でございます。説明会に引き続きよろしくお願いたします。まずは全員協議会を開催いただきまして、誠にありがとうございます。先ほどの説明会では再開発事業の現状について説明させていただきましたが、今回の全員協議会の場においては東西一体のまちづくりの現状などについて説明させていただければと思います。

最初に、風格ある県都を目指すまちづくり構想についてでございます。2ページをご覧ください。本市では、平成30年に策定いたしました風格ある県都を目指すまちづくり構想において、中心市街地における将来ビジョンや公共施設の再編整備に関するランドデザインの基本的な方向性を示しておりました。現在、都市機能などの強化に重点的に取り組むエリアとして、広域利用向けの都市機能が集積しております福島駅前周辺エリアと、多くの行政機能、市民利用向けの機能を集積している、この辺の市役所周辺エリアを重点的に機能強化すべきエリアと位置づけ、公共施設も含めた交流、集客拠点の整備や多様な都市機能の集積、強化に向けて、民間との連携を図りながらまちづくりを推進しているところでございます。そして、この構想に基づいて公会堂機能と市民会館の一部は東口再開発事業、そして中央学習センター機能と市民会館の一部の機能、小会議室等は市民センターとして、また消防本部は市民会館跡地への移転を進めているところであります。なお、この時点では、右側の枠で囲っておりますが、新東西自由通路は必要な機能でございましたが、整備コストなどの検討課題を踏まえることとして、またサッカースタジアムは機運醸成の取組強化などがあり、いずれも中長期的に調査研究するとしておりました。

続きまして、3ページをご覧ください。これが福島駅前周辺エリアについてでございます。絵がちよっと見づらいのですが、当時、指定したときのエリアでございます。この駅前周辺エリアでは、東口再開発事業土地の高度利用や高次の都市機能の集積、強化に取り組むものと位置づけまして、とりわけ市外から多くの人を呼び込み、多様な交流を促進し、交流人口拡大によるにぎわいの創出や復興の推進を図るため、コンベンション機能と回遊性の強化を進めることとしております。また、新東西自由通路は福島駅周辺の回遊性や駅東西の機能連携の強化、災害発生時の避難経路確保などの視点から、民間事業者との連携や整備コストなどの課題を踏まえ、中長期的な検討課題として位置づけ、調査研究を進めております。なお、JRさんとも協議をしているところでございますが、東口の再開発事業と西口の核となる機能をつなぐことで、駅東西間の人流が増加することとなり、施設の必要性が高まるものと考えております。

続きまして、4ページをご覧ください。現在の中心市街地での取組などをご紹介させていただきます。中心市街地の活性化のため、交通手段の充実、商住環境の整備を行い、多様な仕掛けでにぎわい創出や交流人口の増加に取り組んでいるところです。東口では、町なかのにぎわいを創出するため、まちなか広場のリニューアルや街なか交流館の整備、駅前地下歩道階段にアートデザインやストリートピアノの設置を行ってまいりました。西口では、福島駅を降りてすぐ駅西口の福島の顔づくりとして、大ひさし的美装化やエールビジョンの設置を行いました。コラッセふくしまでは、2階の産業交流プラザ常設展示室を改修し、シェアオフィスやコワーキングスペースを備えた新たなビジネス交流拠点としてクリエイティブビジネスサロンをオープンさせ、多くの方々から好評をいただいているところでございます。

続いて、5ページをご覧ください。先ほど説明会で説明いたしました再開発事業の配置図でございます。この内容は令和4年5月時点のものでございますが、昨年の6月の市議会全員協議会でも説明させていただいたものでございます。この時点では、資材高騰の影響もありましたが、先ほども説明いたしました、テナントも含め事業計画がある程度成立していたということでございます。

続いて、6ページをご覧ください。これが西口の主要な商業施設であります現在のイトーヨーカドーの図、写真でございます。イトーヨーカドーはこれまで西口の商業施設の核でありましたので、5月に閉店すると決定したことは、本市にとって大きな痛手でございます。西口駅前という重要な拠点でありまして、先ほど市長も申し上げましたように、土地、建物所有者の意向が重要になりますので、今後どのようにされるのか情報収集に努めまして、コンタクトも取っているところでございます。東西一体的なまちづくりの中で、西口についても将来どのようなまちづくりを進めていくのがふさわしいのか、議会の皆様、市民の皆様の意見を参考にしながら検討してまいりたいというふうに考えてございます。図面の写真の上には、現在の土地所有者の状況であったり、敷地面積、建物面積を参考で載せてございます。

続いて、7ページをご覧ください。これが駅と東西自由通路についてでございます。東西自由通路は、福島駅周辺の回遊性、駅東西の連携などの観点から、民間事業者との連携、整備コストの課題を踏まえて、先ほども申し上げましたが、中長期的な検討課題と位置づけておりました。利用者からは出入口が分かりにくい、写真も載せておりますので、何となく分かるかなと思いますが、ほかの地下通路とつながっていない、暗くて怖いといったご意見がありますので、老朽化した暗い地下通路やエレベーターの改修、エスカレーターを設置を求める声が寄せられております。JRの業務用の通路として使っていたものを再利用した経緯から、駅前地下歩道等に接続されておらず、連続性がない状況であるため、駅前通りなどの中心部への人の流れに影響しており、にぎわい創出には効果的な動線の確保が必要と考えます。また、JR福島駅舎は昭和37年に建設されておりまして、60年が経過しております。将来的には建て替えが必要となってまいりますが、東口には再開発事業による施設、西口に拠点ができることにより、東西の連携強化の重要性がこれまで以上に高まるものと考えております。

今申しあげました東西自由通路の橋上化であったり、駅の橋上化、拠点を結ぶことによりまして、そういうことも視野に入れまして、JR東日本さんとも現在課題、問題点を探るために、駅改札内のコンコースを、電車を利用しない人も利用できる社会実験について協議を進めているところでございます。

続きまして、8ページをご覧ください。今ほど申しあげました駅、そして自由通路の観点で他都市の駅の橋上化とか自由通路を参考にご紹介いたします。場所3か所ございまして、まず1つ目、左側のほうからですね、愛知県豊橋市のJR豊橋駅の自由通路でございます。JR豊橋駅と既存商業施設をペDESTリアンデッキと併せて接続しております。竣工は平成9年度、事業費は約34億円、通路延長は129メートル、幅員は10メートルから12メートルという状況です。

2つ目、真ん中でございます。これは、長野県松本市、JR松本駅の自由通路でございます。JR松本駅の東西の商業施設と公共広場を接続しております。竣工は平成19年度で、事業費は駅前広場や都市計画道路の整備も含め約103億円、通路延長は110メートル、幅員は10メートルから15メートルあります。

3つ目、一番右でございます。これは、広島県広島市、JR西広島駅の自由通路でございます。JR西広島駅での南北にある駅前広場を接続しておりまして、竣工は直近の令和3年度で、事業費は約34億円、通路延長は110メートル、幅員は8メートルでございます。

そして、ちょっと写真の下のほうに入れておりますが、東北各県庁所在都市は橋上での東西自由通路が既に整備済みであるということです。

そして、9ページをご覧ください。これは、今ほど申しあげました西口のイトーヨーカドーさんの部分、真ん中の赤い丸のところですね、福島駅でございます。そして、東口の再開発エリア。それを東口、西口、2つの核がございまして、主な都市機能を黒丸で示してございます。周囲にはホテルや病院、オフィスなどの都市機能がこのようにございます。やはり東口に都市機能が集積しており、駅東西の連携は重要であるというふうに考えております。

最後、10ページをご覧ください。先ほど市長も申しあげましたが、今後の予定となります。本日の再開発の説明会、今やっております全員協議会をしまして、2月8日には第1回の福島駅周辺まちづくり検討会を予定してございます。メンバーは、記載にありますように、学識経験者、経済、まちづくり、文化、西口生活等の関係者、学生等若い世代の方々などで構成しておりまして、テーマといたしましては、中心市街地の現状と駅東西の一体的なまちづくりとして、委員の皆様から意見をいただきたいと考えてございます。そして、2月17日には駅周辺タウンミーティングの開催を予定してございます。市民向けでございまして、これには東口再開発事業、今ほど申しあげました駅東西一体となったまちづくりについての意見交換を中心に考えておりまして、参加者は100名程度募集いたします。市民の声を聴く機会としては、これに限らず、町内会等への出前講座なども要望に応じて随時行ってまいりたいと考えております。そして、ここには記載ございませんが、その後につきま

してもこの福島駅周辺まちづくり検討会を引き続き開催していくほか、市議会全員協議会を再度開催いただきまして、市民の方のご意見をご報告させていただければというふうに考えてございます。

説明は以上でございます。

座長（萩原太郎） これより質疑を行います。

発言及び答弁は、それぞれ自席で行ってください。

なお、一問一答にはこだわりませんが、質疑を円滑に進めるため、1度に行う質疑の項目は1つから2つほどを目安に行っていただきますことと、質問の内容が記載してあります資料のページ、項目などを示して発言していただきますようご協力をお願いいたします。

それでは、質疑のある方お述べください。

25番（小松良行） ご説明ありがとうございます。

前の回での質疑に続けてちょっと尋ねたかった件、確認したかった点があるので、東西再開発ということで関連します。まず、いわゆる分棟化、ダウンサイジング化ということで、さきの資料の10ページを見ますと、以前でしたら客席というのは1,500程度を確保ということだったのですが、これが500程度減少しているもの、これA案ですね。B案については、延べ床面積は書いてあるのですが、席数については書いていないので、その辺ちょっとまず、A案はいいです。B案については、コンベンションホールになった場合、席数はどのぐらいを見込んでおりますか。

商工観光部長（加藤泰広） お答えします。

B案についてなのですが、こちらあくまでもコンベンションで、広い床のスペースになっておりまして、そこに椅子を用いたりという形でセッティングすると1,000から1,500ぐらいの、1,500平米ですから、大体1平米に1つずつ置いていくことができますから、その辺の確保は可能かとは考えているところでございます。

25番（小松良行） それと、分棟型になった場合に、当初の概要では1階、2階スペースはずっと我々、我々が使う部分というのも変ですけども、複合棟の部分は下の商業施設が1階、2階ずっと駐車場棟も含めて続いていくというイメージなのです。ですから、駅から駅前通りを歩いて、商業施設が並び立つということでの、しかも1階、2階と。2階には通路にも見えるような意匠が完成予想図で見えていたのですが、分断されてしまうことと併せて駐車場棟側のほうの商業、業務あるいは飲食とかというのは、これは予定どおりある、計画で進んでいるのですか、それともこっちのほうは全然今回見えていないのですけれども、その辺もちょっとお示しいただけますか。

都市政策部長（森 雅彦） お答えいたします。

組合からは駐車場棟の先ほど台数等の調整は考えているということでしたが、下のところはもともといた方、今、別なところで仮店舗で営業している方が戻る部分もありますので、その辺は今も継続して同じような形でやりたいというふうに聞いてございます。

25番（小松良行） この商業スペース、それから業務、飲食、これが1、2階の部分がずっと連続して

駅前と続いていくということで、当然複合施設としての一体感と併せて、連続性による人流というか、人の流れが多くなり、魅力のある場所だということで考えていただけないか、分棟になることによつてのそうした分断と、分断といいますか、商業スペースが連続しないのではないかとといった点だったり、あるいはその先の駐車場棟等、またあとキーテナントもなかなか決まらないといった中においては、不透明さがさらに増してということで、これは感想ですけれども、甚だ不安を感じているところでございます。

次に、ただいま都市政策部長からお話ありました西への連絡通路、東西の自由通路ということですが、これというのは以前にこうした要望はなされていて、例えばサッカー場などといった考え方もそうですけれども、これ以前出てきて、今構想として漠然と夢を描いていたというていには私も思っていないで、特に東西自由通路につきましては、やはり優先順位からいって、東口の再開発ができた後に西口の計画を進めていく中で、段階としてはまず東口の再開発なのだと、それから取りかかることであつて、私はそういう優先順位があるのだろうというふうに思っているのですけれども、こういうふうな今一連の説明の仕方になると、この計画と同時進行に自由通路のことも進めていくというふうに捉えていいのでしょうか。私は、当然のことながら駅前通りの活性化、駅周辺の活性化をもくろんで再開発がスタートしているので、自由通路ができて人の行き来がさらに多くなる、あるいは交流が盛んになるということはいいいことなのですけれども、この辺の優先順位とか、時期的なこと、今回の特に自由通路については、どういったスケジュール感を持って考えていらっしゃるのかお尋ねしたいと思つます。

都市政策部長（森 雅彦）先ほど私も説明いたしました、まちづくり構想をつくつた時点ではやはり課題等もちょっと多かつたので、中長期的に位置づけさせていただきましたが、その時点では西口のイトーヨーカドーさんはまだ営業継続ということでございました。東口再開発をまずはその時点はやるということで、物価高騰、資材高騰によつて東口も壁にぶつかつて、その中でイトーヨーカドーさんの閉店ということもありますので、今回は皆様に東西一体的なご意見は何いませう。駅東西自由通路についても、私どもとしてはJRさんと十分に協議を進めていきたいと思つていますし、正式な要望という形はまだ取つていませんので、協議としてはしておりますが、そういう部分もやつていかなければならぬ。優先順位といたしましては、やはり再開発事業が動き出している中で、東口がこのまま空洞化、長い期間工事をしないと、今のままの状態というのは極力避けたいとは考えてございます。ですから、東口はある程度先行型で、早めに方針を決めて先行して、駅東西自由通路については、JRさんの都合もありますので、JRさんと協議の下進めていかなければならぬ。西口につきましては、先ほど申し上げましたように、所有者の意向がやはり大事ですので、所有者の意向を踏まえて、なおかつそこにどのような機能がいいかというのは、議会の皆さん、市民の皆さんからのご意見、その辺を踏まえて市としては検討していきたいというふうに考えてございます。

31番（真田広志）今の小松さんの話に関連します。今回、東西自由通路も含めて東西の回遊性の話が

出てきました。これ従来、例えば中心市街地活性化基本計画の中でも、東西自由通路も含めた回遊性の向上に向けての在り方の検討だったり、将来の整備に向けた検討、検証というものが行われてきました。それらも含めて、そのうち中心市街地の将来ビジョン検討会、その中でまちづくりを考えていくときに、やはり東西の回遊性の向上というものは非常に重要だろうというふうに提言を受けているのです。しかしながら、その提言を受けて、そのうちまた公共施設の再編等検討会、様々な形で東西の連携というものはやはり重要だというふうな指摘がされている中で、そのときに風格ある県都を目指すまちづくり構想というものが打ち出されたのです。そうしましたら、私もそのとき随分話しをしたのですけれども、そのまちづくり構想の中で突然に東西軸、いわゆる自由通路の建設、また検討に向けては中長期的な課題だというふうに位置づけられたのです。これにはやはり我々も、多くの市民がこれで本当にまちづくりの在り方としていいのかと。いわゆる中心市街地活性化基本計画上の中心市街地活性化エリアには西口のほうも含まれているわけです。そういったことも含めてこれからしっかり考えていこうというふうに位置づけている中で、そういうふうな中長期的な課題として位置づけられてしまった。もしこのときにここも一体的に中心市街地の在り方として検討していくのだという福島市の方向性が示されていたのであれば、もしかしたら西の商業の核であるイトーヨーカドーの撤退もなかったかもしれない、そういったことも考えていかなければいけないのかなんていうふうに思わなくはないのです。ましてや商業の核であるイトーヨーカドーさんがなくなっていったときに、ここのさらに東西の軸をつくる必要性があるのか、そういうような議論に発展しかねないなというふうに思っているのです。そういったことも含めて、どこまでこの東西の軸というものをこれから考えていくのか、まちづくりと言いつつも場当たりの方向性を示すのではなくて、しっかりと将来を見据えた中心市街地の在り方というものをしっかりと打ち出していきたいと思うのですけれども、その辺の考え方について改めて聞かせていただきたいと思います。

都市政策部長（森 雅彦） ご意見ありがとうございます。

風格ある県都を目指すまちづくり構想、これは平成30年に策定いたしました。この際は中心市街地将来ビジョン検討委員会と公共施設の戦略的再編の委員会と2つの委員会を立ち上げて、両方の提言からこのまちづくり構想という形にさせていただきました。市長も申し上げているとおり、その時点ではやはり公共施設の再編が福島市は進んでいなかったという点から、そちらを優先的にやったという事実がございます。議員おっしゃるように、やはりそのときから俎上にもうちょっと強い形で上げていけばよかったのではないかというご意見だと思いますが、そうは私も思うのですが、やはりその時点では公共施設を優先したというのが事実でございます。

市長（木幡 浩） この時点でいろいろと議論の積み重ねがあるかと思いますが、私の認識からすれば、福島市は確かにあのとき国際会議場とか、あるいはサッカー場とか、あるいは東西自由通路とか、それぞれの部分の検討はあったのです。それは確かに検討の価値があるかと思いますが、全然つながっていなかったのです。つながりのない中で個別の検討ばかりやっていたわけです。ですから、大きな

ビジョンが要るのではないかと行って、この風格ある県都のまちづくり構想をつくったわけです。その際に当然のことながら必要なパーツというのはあるのですけれども、優先順位を考えないことには市の財政も破綻してしまいます。ですから、これは各所のご議論をいただいて、そしてまずはまちの機能としては東口のにぎわい再生というのが、これが何よりも必要だと。それから、公共施設に関して言えば、驚くことに、消防庁舎も含めて耐震性が全然確保されていなかったわけです。まさにこれほどにかく急がないと、市民の安全にも関わりますから、それを優先させたわけです。ですから、まちづくりのビジョンとしては軸とか、あるいはここで中長期的な課題を残しながらも、まず優先順位を決めて、当然東西はつないでいくというか、そういったことも検討していくということでこちらに入れている。まさにそれまで福島市のビジョンにはなかったものを風格ある県都を目指すまちづくり構想に入れて、それからそれまでになかなか進んでいなかった公共施設の再編整備をこの6年の間に消防庁舎も含めて今設計の段階にまで至っていると、そのようにご理解をいただければと思います。当然要らないと言っているわけではなくて、物事の優先順位を考えてこの構想をつくっておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

座長（萩原太郎） 質問は簡潔に願います。

31番（真田広志） 前段の続きがあるので、今までの経緯を含めて今なわけです。その現状を踏まえて未来についてのビジョンを聞いているわけだから、現状のみで将来は語れないわけです。そういう意味で経過も含めて説明させていただきましたけれども、よろしいですか。

座長（萩原太郎） はい、簡潔に願います。

31番（真田広志） そういった意味も、先ほど市長もビジョン、これからのビジョンという話をおっしゃいましたけれども、当然東口の再編がまずは優先順位としては高いよねというような話をされながら、公共施設等総合管理計画などもつくって、町なかの再編というもののビジョンをつくってきたのだと思っています。福島市の東口の公共施設、例えば消防庁舎の話もまだこれからですよ。図書館の在り方もどうなっていくのか分からない。また、新庁舎、いわゆる西棟と言われる部分に関してもまだ完成はしていない。そういったものの総合的に回遊性なんかも含めながらこの計画をつくってきたのだと思っています。そういう意味では、ある程度、東側の計画が落ち着きを見せた後に西口のほうに手を入れていこうと、そういったビジョンであるというふうに理解をしていました。なので、この段階でそこまで含めて一体的に整備していこうということに関しては、我々あくまでも今までの構想であったり計画、また議案に対してしっかりと審議、審査をしながら議決をしてきたわけです。その半ばでこういった計画変更というものが示されたときに、その根拠または今後のビジョンというものをしっかり示していただかないと、やはり今の計画がまだ中途である中での賛同ってなかなか示しづらいなど。そういった我々の役割も含めてしっかり考えていく必要があるのだということで、その辺のことをお聞きしているわけです。であれば、なぜ西も含めた一体的な整備が今必要なのか、そのビジョンというものをしっかりお示しいただきたいなということでございます。

市長（木幡 浩） ビジョンというのは、まさにこれからつくっていくところでありまして、先ほど申し上げたように、東口を優先させて、さらには公共施設の再編整備、図書館に関してもまだ残っておりますけれども、何せ耐震性がなかったわけです。これを急がなければいけないということで進めてまいりました。そうした中で今回事情が変更したのは、イトーヨーカドーが撤退してしまうということなわけです。ですから、あそこをどうするのだというのが急に我々の課題にのってきてしまったわけです。そのときにイトーヨーカドーはイトーヨーカドーで検討するのではなくて、あそこを検討するときには、ではどうやって東口とつなげていくことも考えながらやっていくのがいいのかとか、そこはやはりつながって考えないといけないのだと思います。それから、JRの駅舎、先ほど説明したように非常に古いです。新幹線のある駅舎としては非常に私としては何となく寂しくなってくる駅舎かと思います。これまでもJRに駅舎の再整備をお願いしてまいりましたが、やはりJRからすれば、では福島市は駅周辺をどういうふうにしたいのですかということも、逆にそれがないと自分たちも検討もできないという面もあるのです。その点では、今、西口のイトーヨーカドーの撤退をきっかけとして、東西をつなげたビジョンの構成というのが必要になってきたということでもあります。当然やるにあたってはまだ東口ですらできていない状態ですから、物事の優先順位はありますし、基本的にはそれぞれをやってからつなぐのは後になるか、あるいはJRさんが早く駅舎をやってくれるような話になれば、それはまたこちらも一緒になって優先するとか、そういうことにもなってくるだろうと思います。ですから、我々とすればここで改めて西口をきっかけとした東西の全体的な構想、ビジョンをこれからつくっていきたいということでもあります。

28番（羽田房男） まず、先ほどの説明で、8ページ、JR西広島駅は134億円ですか、34億円ですか。令和3年度に完成したのですけれども、34億円、134億円、どっちですか。

都市政策部長（森 雅彦） 失礼いたしました。西広島駅の自由通路は、事業費は約34億円です。

28番（羽田房男） 了解しました。

7ページの東西自由通路についてです。確かにここは昭和56年に業務用の通路ということで設置されたわけですが、1つ利用者に対しての調査はどのようにされましたか。利用者からの声が記載されております。どのような調査をされてこのような声を集約されたのかということ伺います。調べてください。その利用者調査の中でアンケート調査なんかもされたのでしょうか。

都市政策部長（森 雅彦） 利用者のアンケート調査をしております、今ちょっと確認しますので、ちょっとお時間いただければと思います。

28番（羽田房男） この地下の自由通路、この管理は誰がされているのでしょうか。

都市政策部長（森 雅彦） 福島市でございます。

28番（羽田房男） 私もそのように認識をしておりました。したがって、例えばここに利用者からの出入口が分かりにくいということについては、JRさんと協議をして、市が管理をしているわけですから、市がきちっと分かるようにすべきですし、暗くて怖いというのであれば、きちんと照明の整備を

すればいいのかなというふうに私は思ったのですが、そういうこともされずに、そのような声があるにもかかわらず、市は実施していなかったという理解でよろしいでしょうか。

都市政策部長（森 雅彦） 出入口が分かりづらいというのは確かにご意見としてはあって、J Rさんの駅ビルの地下を使ったり一部している部分があったり、分かりづらいというのはそういうところがあると思いますし、先ほど私が説明したように、地下通路だけで完結しているものですから、ほかの地下道ともつながっていないという、そういうのも使いづらいというところがあります。あと、暗いという内容でいいますと、電灯のほうはLED化を図ってはきているのですが、どうしても天井が低かったり、周りの壁が汚れていたりとか、そういう暗い雰囲気があるので、なかなか明るくするのも限界があるというか、今の現状になっているような状況で、そういう意見があったということでございます。LED化は行って、明るくしているのですが、現状の状況だということです。

28番（羽田房男） 私は、しょっちゅう通りますけれども、暗くてつまずいたことは一度もありません。この年齢ですけれども。それで、繰り返しますが、利用者のアンケート調査はどういうふうに調査されました。

都市計画課長（赤間智行） お答えします。

駅周辺の利用状況調査を令和3年度にやりまして、高校生にアンケート、あとはLINEを活用したアンケート、それと市政ネットモニター等に、30代から40代の方々にアンケートを実施しております。

28番（羽田房男） 令和3年度に高校生に調査をしたり、LINEで調査をしたということですが、やはり狭くて分かりづらいとか、あとは暗くて怖いとかということについては、そういうアンケート調査の中でしっかりと把握をしていただきたかったなというふうに思っております。

次ですけれども、J Rとの協議ということで、社会実験についても部長のほうから提案をしているのですよということをお示しいただきましたが、その内容と、さらに提案をした中でJ Rさんはどのようにお答えになったのかということをお尋ねします。

都市計画課長（赤間智行） 社会実験に係るJ Rとの協議内容なのですけれども、今の既存のコンコースが電車に乗られる方、改札を通して、有料で現在は通行できるところでございますので、その通行料に関して、今後社会実験するにあたって、その費用も含めてJ Rさんのほうと手法について検討、協議を続けているところでございます。

28番（羽田房男） 確かに有料になってしまうのかなというふうに思います。阿武急線とか飯坂線から新幹線に向かう場合については、一応証明書を発行して通るということになっておりますが、今はですね。これからは分かりませんが、そういうような方式を取って、一旦在来線の切符で出て、そして新幹線の切符と併せて入場するというような形を取っておりますので、やはり有料になるのかなというふうに思いますけれども、分かりました。

最後ですが、2月8日に第1回の福島駅周辺まちづくり検討会を開催いたしますよと10ページのほ

うにスケジュール予定が示されておりますが、この中では、今全員協議会でお示しいただいた資料と同じものを提出して協議をされるのか、それとも附属資料みたいな、そういうのも含めてお示しをして検討会の中で議論されるのか、これについてお伺いします。

都市政策部長（森 雅彦） お答えいたします。

基本的には同じものを使用したいと考えておりますが、今回の説明会のような順番、説明会、全員協議会の順番ではなくて、全体的な話から入って再開発を説明するような形で進めたいと考えてございます。

19番（石原洋三郎） 同じく7ページのところでお聞きしたいのですけれども、基本的には私自身西口のほうにおりますので、東口に行くときに確かに市民の方々が利用されているところもありますので、もしできるのであれば東西自由通路をもっと将来的にはよりよくしていただきたいなと願うところがあります。基本的には東口の再開発が進んで、どのみち東西自由通路をすばらしく完成させるにしても10年、20年にかかるような話ではないかと思えます。かつて東海市に行ったときにも、東西一体をするのに30年かけて構想を練ってやったということでもありますので、ぜひ東西の一体化というものは進めていただきたいと思うところがあります。そのような中、この東西自由通路をもし実施するといった場合には、事業費としては何億円かかるというふうに見込んでいるのか、また補助金、補助事業、こういったメニューがあるのか、その点を教えていただきたいと思えます。

都市政策部長（森 雅彦） お答えいたします。

まだ事業費のほうはつかんでおりませんが、福島駅の場合は東口、西口と線路の部分が大分、長いといえますか広うございます。ですので、結構な事業費がかかるのではないかと想定はします。あと、補助事業は、東西自由通路は道路的な扱いができるものですから、国の都市局のほうの事業を使うというふうにご考えてございます。

19番（石原洋三郎） ちなみに、松本駅で103億円と、あと広島市で34億円ということだったので、その例えは内訳等々を教えてくださいたいのですが。

都市政策部長（森 雅彦） すみません。内訳まではちょっと今手元にございませぬので、ご了承いただければと思います。

19番（石原洋三郎） 最後にお伺いしたいのですけれども、東口の再開発で事業費が高騰していった大変だと言っているときに、片方で縮減すると言っていて、片方では東西自由化でまたお金がかかるわけですね、実施するときに。なぜここで東西自由化の話を持ってきたのか、その部分のコンセプトを、もちろん将来的には東西自由化をぜひやっていただきたいのですけれども、その部分どのような意図で持ってこられたのかお教え願います。

市長（木幡 浩） すみません。先ほど真田議員に答弁した内容ですので、ご了承いただければと思います。

33番（半沢正典） 10ページの今後の予定について、スケジュール予定についてなのですが、検討会で

ご検討いただいたり、またタウンミーティングで市民の意見を集約したりということで、まずは大体、おおむね、ある意味今回東西連絡通路が急遽出てきたというのは西口のイトーヨーカドーの問題があってということで、スピード感を求められるのではないかなというふうな思いもあるし、またあまり焦って検討をせかすのもいかがなものかなと思いつつ、大体どれぐらいをめどにこの検討会の検討を考えて、それに基づいて市のほうでどういう形で計画とか、例えば風格ある県都を目指すまちづくりの第2版をつくるとか、また中活を計画に入れるとか、その辺の今後のスケジュールについてちょっと教えていただきたいと思います。

都市政策部長（森 雅彦） スケジュール感ということでございますが、まずは記載の10ページの日程で市民の皆様からのご意見をいただきます。ただ、市長も申し上げましたように、東口の再開発、見直し案として2案ほど今検討始まりましたが、この方向性を早めに決めないと、その後はまだ設計の期間も要するということありますので、その辺を考慮した中で、全体の東西一体の考え方は同時、検討委員会で議論はしつつ、東口の方向性を早めに出したいというふうに考えてございます。ですから、検討会がいつ頃までで、どのような構想をするかというのは現段階ではなかなかちょっとお示しできませんが、それほど時間はかけたくはありませんが、いろいろな意見はありますので、その辺を考慮して、西口の土地所有者の意向もありますから、その辺を踏まえてつくっていききたいなというふうに今のところは考えてございます。

市長（木幡 浩） 様々な計画としてオーソライズするかとか、そういうところのご質問がありました。西口に関して申し上げれば、先ほども言ったとおり、これは民間の不動産会社の土地なのです。そこはどういうふうにするか。もしかすると実はすぐにマンション業者に売ってしまって、マンションが建つということにもなりかねないわけです。そうした中で、我々としては市も含めた市民の希望というか、要望というのをこの議論の中でできるだけ集約していきたいと思うのです。それもあまり1つというよりは、優先順位をつけて1つ、2つ、3つとか、そういったまとめ方もあると、まとめるというか、整理の仕方もあると思うのです。というのも、本当に流動的なのですけれども、もし不動産業者があそこで自分たちも土地を確保してこういうものを造りたいのだと、それだったら人はこういう形で連携できないかと、こういうやり方になる可能性もあるわけです。そうなると、我々もいろいろな形で懐を深く持っていないと、一回こうやってまとめたのに、それが向こうには全然受け入れられなくて、では次のことは何もできないことになってしまうのかとか、そういうことにもなりかねませんので、その点では我々としても民間事業者の今後の動向も踏まえて、うまく対応できるような形で議論を集約していきたいと思っています。それができて初めて計画として、民間事業者と決着がついた上での最後オーソライズになると思いますので、そこはちょっと今のところ何とも西口に関しては言えないような、見通せない部分かなというふうに思います。

12番（斎藤正臣） 先ほどの説明会から通してお話をお伺いして、まず個人的な感想を申し上げますけれども、東口の駅前再開発の計画のほうをお伺いしましたけれども、これでは私は駅前のにぎわいと

というのは創出できないと思います。そもそも何で東口にコンベンションホールが必要なのかというところ、それはハイブリッドにして、80%以上の稼働率をしっかりと確保するから、駅前のにぎわいをそれで創出するのだと。加えて、商業施設があるので、それで駅前のにぎわいというのを担保するのだというような説明だったはず。それで話が進んでいるはずなのですが、今回それを分離する。例えば劇場ホールになったら平日の日中ってどうするのですか。例えばコンベンションホールか、B案にしたら、別にバンケットが入っているわけでもないし、どうするのですか、それ。しかも、権利者棟、先ほど事業者さんからお話を伺いましたが、あれだけ商業施設が矮小になって、しかも何階に入るのかわからない。もしかしたら、ないかもしれない。しかも、かなり小さい。その中で、先ほど都市政策部長のほうからA案かB案か、どちらかで決めて進めていきたいという話がありましたけれども、私は当然駅前再開発の完成というものが早ければ早いほどいいと思いますけれども、拙速であってはならないというふうに思っています。今のままで市民に何でそれを何百億円もかけて、市民の税金ですよ。それをかけてやらなければいけないのかということに対しての説明が私はできない。そこに対して皆さんどういうふうに、これから報道されますけれども、その後皆さんにも当然問合せが来るでしょう。どうやって説明するのですか。コンベンション、A案かB案か、どっちがいいということに対して。そこに対しての回答をお伺いしたいと思います。

市長（木幡 浩） 前段の説明会で申しあげましたけれども、A案、B案で決めていくという話では決していないわけです。だから、この説明がちょっと悪かった。先ほど私は村山議員のときに申しあげましたけれども、まず大きな方向性としてのA案、B案をお示しさせていただきました。当然これから意見をお伺いして、まずどちらの方向性かという、あるいはもしかすると第3の案があるかもしれませんけれども、そういった方向性をまず出さなければいけないと思っています、早々に。それから、中身に関しては、さらにこれを皆さんのご意見を伺って、それでブラッシュアップをして、より魅力的なA案、B案、何々、それでもいいのですけれども、そちらの派生形にして持っていくことであって、今現在の時点ではそんなに味つけが全然できていない案ですから、今後しっかりと味つけをして、冒頭申しあげましたように、やっぱりこの施設だけではなくて、町なかと併せて一体的になんかをつくっていくような、そういう施設にしていかなければいけないと思うのです。もともと運用の連携として我々考えておりました。そういう連携案も含めて今後この見直し案をつくっていきたいというふうに考えております。

9番（佐原真紀） ご説明ありがとうございます。

先ほどからやはり市長からも市民の声を聴くというご意見出ておりますけれども、今出ている10ページの今後の予定について詳細をお伺いしたいのですけれども、2月8日のまちづくり検討会に関しては、若い学生の声や若い世代の声を聴くということで、このメンバーはもう既に決定されているのでしょうかということと、検討会で出た内容は今後共有されるのでしょうかということをお伺いしたいです。

都市政策部長（森 雅彦） お答えいたします。

第1回のまちづくり検討会、このメンバーにつきましては決定してございます。その共有ということなのですが、意見の共有ですが、先ほど私も説明したように、全員協議会を再度開催していただいて報告するとか、そういうところ……

市長（木幡 浩） そういうのではなくて、むしろ共有というのは議論の概要をオープンにするということでしょう。

9番（佐原真紀） そうです。どんな内容が出たのか、メンバーから。

都市政策部長（森 雅彦） この検討会も公開で開催する予定でおりますので、その内容につきましてはある程度発信はできるものかなというふうに思っております。

9番（佐原真紀） その会の市民の傍聴は可能なのでしょうか。

都市政策部長（森 雅彦） はい、可能でございます。

9番（佐原真紀） その会の詳細の周知は今後どのようにするのかと、何時にどこでやるということ。結構近い話です。

都市政策部長（森 雅彦） 本日プレスリリースを予定しておりましたので、公開して募集もしていきたいと思っています。2月8日、場所はテルサで、2時から開催予定でございます。

市長（木幡 浩） 市民の意見ですけれども、今回こうやってオープンにしますのも、実際不動産投資研究会はオープンフォーラムのような形で実はやっているわけです。そういった形で検討会である程度議論は一定の方にやっていただいたほうが煮詰まると思うのです。ただ、できる限り周知をするという点でいうと、メンバーの方にちょっとプレッシャーになるかもしれませんが、オープンな場でできる限り傍聴席などもつくってやっていきたいと思っています。それから、我々のほうからぜひお願いしたいなと思っているのは、今福島でこくりナビという若い人たちがまちづくりに参加したい人のグループ、150人以上いるのです。そうした人たちとはぜひ意見交換をしたいなというふうにも思っていますし、それからよく意見を聴け、聴けとおっしゃる方が多いので、それはこっちから呼ばないと来ないではなくて、出前講座とかそういった形でぜひ申し入れてほしいと思いますし、我々としてはそれらに対応して皆さんと話し合いをしていければというふうに思っています。

11番（根本雅昭） 本日はありがとうございます。

これだけ大きな構想、東口、西口含めての一体的なものと、やはり固定資産税にも関わってくると思うのですけれども、ちょっと今日説明がなかったのか、関連しているかどうかですけれども、固定資産税の増額ですとか経済効果、その辺について財務部などと話をしているかどうか、ちょっと話飛躍していますかね。もし何かお答えできるものがあれば。

市長（木幡 浩） 固定資産税は当然資産の価値が分かって初めて出ますので、その点では固定資産税までは我々とすればまだ計算はしておりません。それから、結構な部分は公共施設になりますので、公共施設の固定資産税は基本的に入っていないという認識でおります。できればその中での活動が活

発化することで市民所得が上がったり、そういった面での税収の増ができれば我々としては大変ありがたいと思っております。

11番（根本雅昭） 分かりました。そういった中で、イトーヨーカドーの跡地について、新聞報道だと市での買取りも含めてこれから検討会での検討、そういった話があれば検討の余地ありということなのですけれども、これはどういうことですか。買い取って、その後民間にまた売却するのか、それとも、こういった意味での新聞報道でしたか。

市長（木幡 浩） それは私が記者会見でお話したことだと思いますが、当然もし市の施設などを造るというような案が出てくれば、市として買取りを考えないとそれは成立しないわけです。ですから、それはそれで全く排除するわけではないということで申し上げた次第であります。もちろん実際にやる場合は何よりも、これだけ大型事業が続いていますから、市の財政負担なども十分考慮して進めなければいけませんし、それからやはり基本的には私としてもできる限り民間活力は導入したいのです。ただ、いかんせんなかなか組合の再開発事業も苦勞しているように、民間でやれる方がいないというのがこの福島の現状でありまして、その点では本当に特に地元資本の皆さんに勇気を持ってむしろどんどん事業に乗り込んできていただければなというふうにも思っております。

11番（根本雅昭） ありがとうございます。今市長が後半おっしゃったとおりだと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

10番（菅原美智子） ご説明ありがとうございます。

ちょっとお聞きしたいのですけれども、教えていただきたいのですが、さきの説明会におきまして計画の見直し、それからダウンサイジングということがありましたけれども、この計画の見直しに際しまして、やはり経費の削減は見込まれるということで数字は示されているのですが、計画の見直しに際しての市の負担ですとか、かかる金額というのは、例えばコンサルタント会社にまたかかっているのか、設計の見直しでまた経費がかかっているのか、その辺のところを教えてくださいませんか。

市街地整備課長（佐々木泰） 先ほどお話ししました現計画の部分についてもやはり基本設計、実施設計とか、そういった部分を踏まえて計画のほうをつくってきた経過がございまして、その辺で見直しとなってくれば、ある程度基本設計も生かせる部分あるのですけれども、やはり基本設計からそういった実施設計も踏まえて、設計のほうの見直しというのはどうしてもそういった費用というのが、外部のコンサルタントのほうに委託するような形になってきます。

都市政策部長（森 雅彦） 見直しとなればある程度の費用がかかりますし、これは組合のほうで出すことになります。それに対して市としても補助、支援なり、その辺が出てくるかと思われまます。

22番（二階堂武文） 土地所有者のヒューリック株式会社との関係性についてだったのですが、要望になってしまうのか、あれなのですが、先ほども市長のほうでいろいろ民間活力の利用ができればそれにこしたことはないというところでお話がありましたし、私せんだってのある会合でいろいろ話を伺

いましたら、やはりヒューリックさんのほうに民間から三、四業者さん、マンション業者さん、商業施設、病院関係等でいろいろ相談が行っているというようなお話をちょっとお伺いしました。そういった中で、2月にいろいろ市民のご意見を聴く場とか何かありますが、土地の値段の高さというよりも、福島市民が西口に望むものというところで、先ほど来ございましたけれども、市民の意識を、こういったものがビジョンとしてこれから未来を語っていく場合欲しいという皆さんの、市民の意思、希望というか、そういった声をまとめていく作業、またヒューリックさんとやはりそういった情報を行政の立場からお伝えして共有しながら、何とか関係性をいい方向に持って行って、福島のビジョンに見合うような方向性をそういった方向に持っていけないものかと、そういった努力をしてほしいという要望というか、話を聞いたばかりだったものですから、ちょっとお伝えできればと思います。

市長（木幡 浩） お答えいたします。

これを私冒頭で申し上げましたが、今回の西口の議論はやっぱり福島市民としてこういうものを望みたいのだというものを我々がある程度まとめて、その上で事業者に働きかけをし、あるいは今後いろんな調整をする場合の材料にしたいということですので、まさにおっしゃったとおり、その意を受けて我々がまた業者と当たっていきたいということでもあります。

26番（村山国子） 東口の計画が物価高騰で変更になるという、また市民が今物価高騰の中ですごく大変な苦しい生活を強いられている中で、本当にこの計画、東西の通路に関して市民の理解が得られるかというのはすごく疑問なところですので、市民に対して意見を聴くというので、10ページで検討会とかタウンミーティングをやると言っていますが、これは一部の声でしかないと思いますので、広く市民の声を聴く必要があると思います。そこが1点と、もう一つ、先ほどこの自由通路について道路扱いになるって都市政策部長がおっしゃったような気がするのですが、そうすると道路扱いになるということは、あづま陸橋と同等になるということで、普通だと、石原議員が言ったみたいに、線路の上に跨線橋みたいにやれば本当に30年という期間がかかるけれども、道路扱いになるとその期間というのは短くできるのかどうかというのを、その2点お聞きしたいと思います。

都市政策部長（森 雅彦） お答えいたします。

まず、市民の声を広く聴くべきということでございますが、確かに市民の声は皆さんからご意見をいただきたいというふうに考えておりますので、検討会、タウンミーティングほか、出前講座等も考えてございますし、様々な媒体を使いながら意見をいただきたいなというふうに思っております。

2点目、道路扱いというのは、補助事業上道路扱いという形を言ったままでございまして、時間がかかるとか、そういうことはまだこれから協議をしてみないとなかなか分かりません。やっぱりJRさんあつての話ですので、こちらからの一方通行にはならないように協議をちゃんとしていきたいというふうに考えています。

35番（渡辺敏彦） いろいろ夢を目標にして、そして具現化を目指して、そのためにいろいろ計画を立てます。ただ、その裏づけは大丈夫なのかなって心配をします。例えば今後の予定の中で、駅周辺ま

ちづくり検討会をやる、あるいはタウンミーティングをすれば、当然市民の方々は自分の財布が痛まなければ便利になったほうがいいという答えを出すはずなのです。市のほうは、市民の声だよということで計画立ててしまうことがある。ということを考えれば、その裏づけになる、先ほど斎藤議員のほうからあったように、税金使っているのだよという意識をしっかりと持っていないといけないというふうに思っておりますから、夢は夢、目標は、なるものは目標になる。具現化を目指して計画を立てる。今計画を立てる段階なのか分かりませんが、財政的な見通しというのはどういうふうになっているのですか。非常に心配なのですが、その辺の見通し。例えば今東口をやっていますから、西口をすぐにやるという話になれば大変な状況になると思うのです。その辺の財政見通しについてはどのように考えておられるのかお聞かせいただきたいと思います。

市長（木幡 浩） お答えをいたします。

財政の見通しに関しましては、毎年度試算をお示ししております。それに基づいて申し上げれば、令和9年度かそのぐらいだったでしょうか、財調とかそういった基金も枯渇をするという状況になっていまして、非常に厳しい状況に間違いはありません。ですから、我々もこういった案をつくるときには、ある意味今回のダウンサイジングも、組合の財政もそうですけれども、我々も当初の計画をつくったときに議会の皆さんからできる限りコスト縮減に努めろというご指摘をいただきましたので、そういったものに基づいてコスト縮減を図ってきたつもりですし、その一環でまた今回ダウンサイジングを我々もやるべきではないか、こう思っているわけです。当然今後こういったことがいいねということをご構想する場合も、構想はしてもその中で事業費を圧縮するとか、あるいは当然のことながら同時並行的には進められませんから、優先順位を持って長期にわたって行うとか、そういったことはあくまでも財布との相談でやっていくことでありまして、財政破綻しないように様々な事業、それからまた事業を生み出すための変革も進めていかなければいけないと、こんなふうに思っております。

16番（佐々木優） 7ページのところの今ある地下通路のことなのですが、昭和56年から使っているということで、耐用年数というのがあるのかどうかということと、JRとコンコースを使う話合いをしているということをご構想前からおっしゃっていると思うのですが、具体的な協議がどういうふうに進んでいるのか進んでいないのか、そのことについて詳しく教えてください。

都市政策部長（森 雅彦） お答えいたします。

地下通路の耐用年数まではちょっと分からないのですが、今JRとの協議は、やはり改札を通るコンコースなものですから、先ほど来話があったように、費用面の部分とか、そういう部分も含めて検討しています。やはり自由通路的な扱いでの社会実験をしたいと考えていましたので、その辺をこれからも協議をしてみて、皆さんの利用状況も把握したいというふうに考えておりますので、継続してJRと協議してまいります。

16番（佐々木優） その継続していく話合いというのは、費用が思いのほかかかるということでなかなか進まないという意味なのでしょうか。

副市長（田中政幸） お答えさせていただきますが、JRさんと何を言っているかといいますと、今、最近首都圏とかで駅ナカに店舗を置いて、そこにSuicaとかで入れると、買物をする前提なのですが、入ると、その場合には無料にするというような取組をやっているものですから、同じようなことができないかということでいろいろ調整をしてきた経緯がございます。ただ、全国的にそういう駅ナカに店舗がない状況の中で、どういう形ができるのかというのは全国のルールの中で決められているので、その部分で何か工夫ができないかということもずっと調整しています。ただ、おっしゃるように費用負担すればやってもらえるわけなのですが、それだと実現性というか、実際に実験ではなくて恒久的にやるのはなかなか難しくなってくるので、それでちょっと協議が長引いているというような状況でございます。

以上でございます。

6番（山田 裕） 10ページですけれども、スケジュール予定が出ています。これ東西自由通路を造るかどうかということを示して、それで市民の声を聴くということに限定された、こういう計画なのかどうかということによろしいでしょうか。

都市政策部長（森 雅彦） もう一度お伺いしますけれども、今日説明させていただいた現状も含めて、それを検討委員会で今後のまちづくりとしてどのようにすべきかという意見をいただこうかと思っています。市民のタウンミーティングについても同じことで……

【「東も西も全部だと言えればいい」と呼ぶ者あり】

都市政策部長（森 雅彦） はい、東も西も全部です。駅とか東西自由通路もどうしていくべきかとか、そういう部分も含めてご意見をお伺いしたいというふうに思っています。

6番（山田 裕） 市長が先ほどA案、B案、それ以外もあるという話がありました。私はA、Bに限定するのかなと思いましたが、それ以外もあるというのだったら、それもしっかり市民の声を聴くと、それを反映させるということが必要だと思いますけれども、それはこの予定のスケジュールの中でしっかりと位置づけられているというふうに考えていいですか。

市長（木幡 浩） C案という第3の案は、先ほど村山議員にお答えした話ですけれども、我々とすれば提示としてはA案、B案をまず提示しているわけです。当然それでご意見を伺いながら、どちらがいいか、あるいはそれにどうやっていいものをつくっていくかということなのですが、その過程の中でA案、B案でもないもっとすばらしい案があるのであれば、それは検討しないまでもないよと言っているわけであって、第3の案を我々が持っていて提示するということではありません。

6番（山田 裕） ですから、提示するのではなくて、市民の声が反映されるような、そういう中でA、B以外の案をつくるべきだというふうに思うので、そのための市民の声を聴く場というのは設けるのですかという質問なのです。ですから、今後のスケジュールの中でそういう場はきちんと位置づけられるのですねということです。

市長（木幡 浩） 別にC案をつくるためのものではありませんので、おのずと出てくれば議論の対象

にもなるでしょうし、それから当然我々がまた議会にも説明していない案を中心にやるとなれば、まずその段階ではこういう案でいかなければいけないとか、いろんなプロセスは案の状況によってまた変わってくると思います。ですから、これはあくまでもスタートのスケジュールを今お示ししているので、今後はまさに意見の出具合とか、様々な環境に応じて我々としては会議とか何かの運営を考えていきたいというふうに思っています。

31番（真田広志）先ほど今までのまちづくりの考え方なんかも含めていろいろ伺ったのだけれども、要は何のために東西の軸が必要なのかということなのです。西口は西口で別に開発をするのではなくて、東西しっかり一体的にビジョンを持ってまちづくりをしていくことが大事で、この前、立地適正化計画なんかもつくりましたよね。その中でやはりこれからの人口減少化社会に向かって持続可能なまちづくりってどういうものなのだろうか。無秩序な開発というものを避けながら、しっかり計画性を持ってまちづくりというものを考えていきましょう。特に中心市街地に関してはそういったことをしっかりと基本に置きながら考えていこうということになっているので、立地適正化計画の中でもいわゆる都市機能誘導地域ということで定めていて、どういった施設が必要なのかということをしっかりゾーニングしながらこれからのまちづくり考えていこう、そういうような話でありましたよね。なので、やっぱり東西しっかり一体的に考えた上で、こんな施設が欲しいのだということではなくて、ただ単にそれだけではなくて、これから人口減少社会に向かってどういったものが本当に市民にとって必要なのかというものを全体で一体的に考えていく必要ってあるのだろうなということ、先ほどビジョンという話をさせていただきました。その辺も含めてまちづくりの在り方ってしっかりと示していかないと、これも欲しい、あれも欲しい、ここが潰れたから、こういったものをやろう、そういった場当たりのまちづくりというのはやっぱりいかなものかって思ってしまうので、そういうふうに結果的にならないように、しっかりと全体を見据えた、また将来を見据えた、そういったまちづくりというものをしていていただきたいなというふうに思っておりますので、これは要望となりますので、よろしくお願いします。

18番（沢井和宏）聞き漏らしたのかもしれないのですが、このタウンミーティング等の市民の意見を聴く、いつまでも聴いているわけにいかないと思うのです。計画はある程度早めに進めなくてはならないので。大体お尻というのはいつまでに意見を取りまとめて次のステップに行くかという、いつまでタウンミーティングとか出前講座とか、そういうのをやるおつもりでしょうか。

市長（木幡 浩）お答えをいたします。

いろいろご意見を伺う中で、その出方によって変わってくるのだろうと思うのですが、その中でも全部が一緒にいかないと次、前に進まないのかということ、これは大変なことになってしまうので、東口に関しては、東西全体の展望を持ちながらも、先行して我々とすれば進めなければいけないだろうと思っております。それは、先ほども申し上げましたように、今もし決まったとしてというか、近々決まったとして、今までお示ししている完成予定の令和9年から1年遅れる形になってしまうわけで

す。そうすると、なかなか町なかの核がないままに時間が過ぎてしまうことになりますので、できるだけそれは避けていきたい、短くしたいというふうに思っております。そうした両方の兼ね合いを、拙速にはならないようにというのとスピードと両方考えながら、我々としては議論をうまく集約していきたいなというふうに思っています。

座長（萩原太郎） ほかにございませんか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

座長（萩原太郎） ご質疑がなければ、以上で質疑を終了いたします。

以上をもちまして全員協議会を終了いたします。

午後4時27分 散 会

福島市議会議長

萩原太郎